

(5) 東海



東海地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

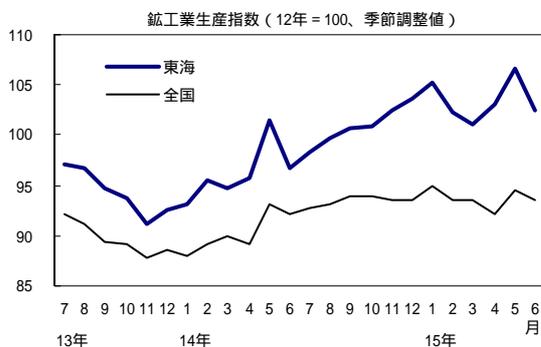
前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年5月)	今回(平成15年8月)	
景況判断	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直しの動きが続いている	
鉱工業生産	緩やかに減少	おおむね横ばい	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

輸送機械は、自動車の国内向けでは、これまで好調であった小型車には一服感がみられるものの、ミニバンに新車投入効果がみられる。また、このところ減少していた完成車輸出も下げ止まりの兆しがみられ、全体では横ばいながらも高水準を維持している。なお、自動車部品は完成車メーカー向け、輸出向けともに引き続き堅調に推移している。一般機械は、金属工作機械では輸出向け、国内向けともに自動車関連を中心に持ち直しており、繊維機械では中国向け織機が増加している。電気機械は、自動車向けの電動機や制御機器を中心に堅調に推移している。窯業・土石は、ファインセラミックスが横ばいとなっているものの、陶磁器が住宅向けタイルを中心に低調に推移している。化学は、自動車向けが高水準を維持している。



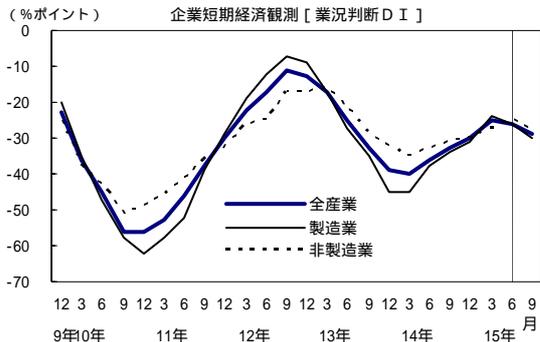
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	33.9	3.8	0.2	0.5	13.3
一般機械	11.3	4.8	3.9	3.6	7.6
電気機械	7.3	4.8	4.9	6.6	23.4
窯業・土石	6.1	2.0	3.5	3.4	0.9
化学	5.4	1.6	0.4	2.2	3.6
鉱工業	100.0	0.5	1.2	0.8	2.5

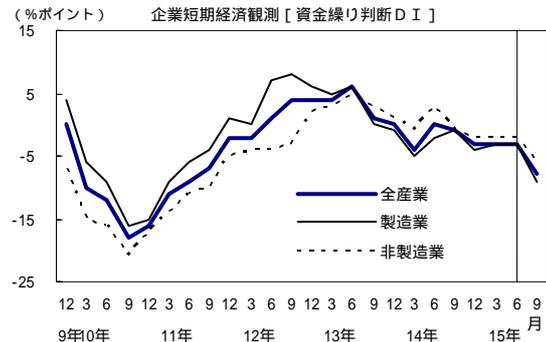
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

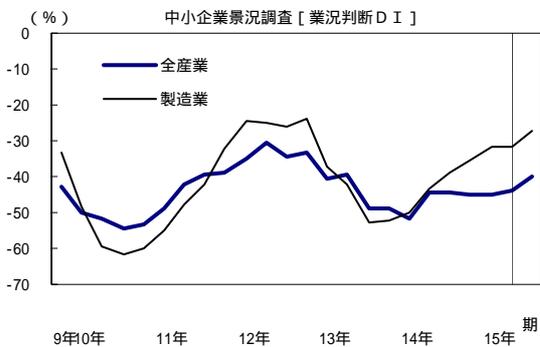
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「コスト削減のため、保険料の安い系列外の保険会社にしてもよいという顧客企業が増加している (金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

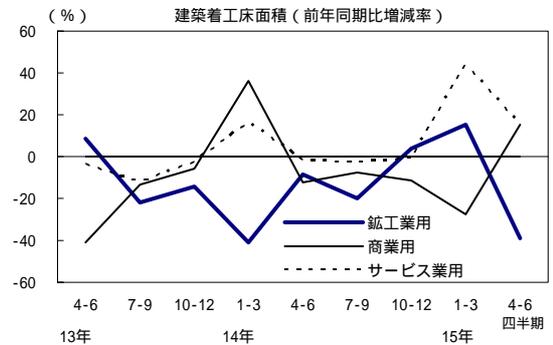
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	9.1 [1.6]	9.2 [1.4]
製造業	5.8 [1.1]	8.0 [1.6]
非製造業	12.0 [2.0]	10.3 [1.3]

(備考) [] は前回 (3月) 調査結果。



(5) 東海

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

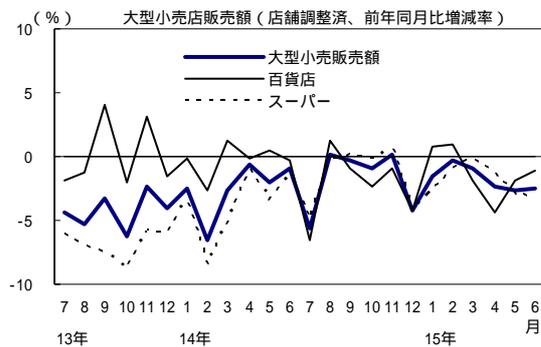
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は週末の悪天候の影響等で主力の婦人服を中心に衣料品が低調であった。5月は母の日商戦が比較的的好調となるなど、身の回り品を中心に衣料品が底固かったものの、飲食料品は前年を下回った。6月は引き続き身の回り品が好調で、夏物セールの前倒し等から主力の婦人服も前年を上回るなど衣料品が4か月ぶりに前年を上回ったものの、全体では4か月連続で前年を下回った。

スーパーは、期間を通じて飲食料品が比較的に底固く推移したものの、婦人服を中心に衣料品が振るわず、全体でも7か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「コンパクトカーの売行きは減少傾向にあるが、それに代わる主力車種の売上が増加しており、販売量全体は変化していない。しかし買換えには慎重で、車検を選択する客が増加している(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

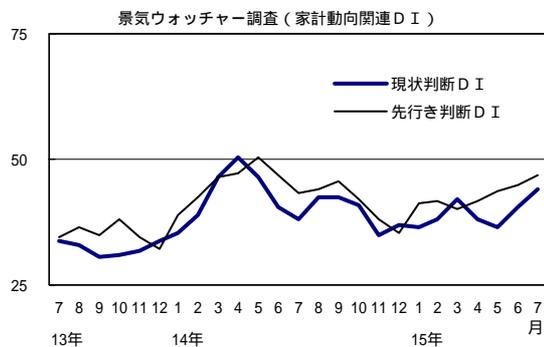


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	2.2	1.9	1.0	2.5
百貨店	2.8	2.7	0.2	2.5
スーパー	1.8	1.3	1.4	2.5
乗用車	8.6	7.7	7.3	4.1
景気ウォッチャー	40.8	37.6	39.0	38.3

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。中部地区の値。

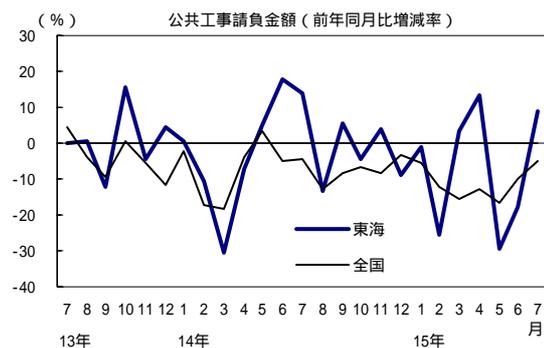
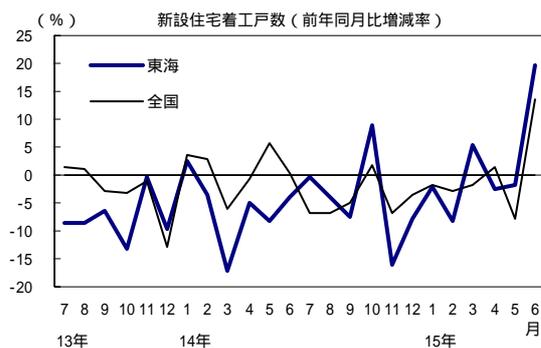
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を下回ったものの、貸家を中心に前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年とほぼ同水準になっている。

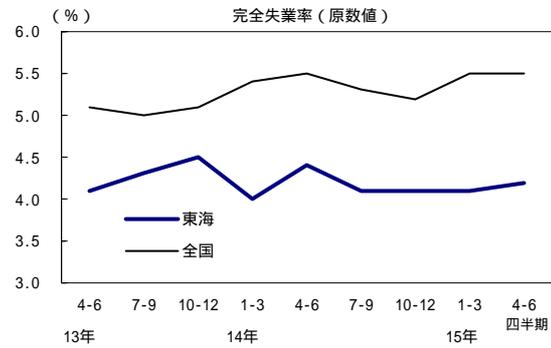
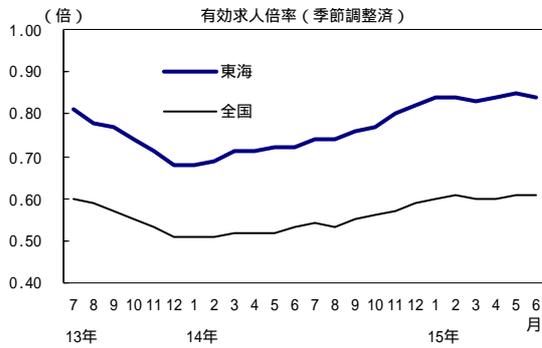


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月調査）[雇用関連（現状判断）]

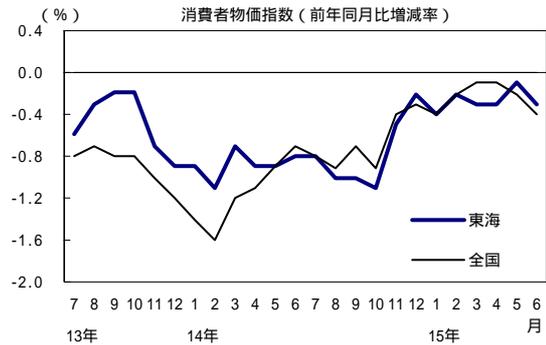
「生産工程の現場では、女性に適した仕事が増加している。そのため、女性は人手不足、男性は余剰といった雇用のミスマッチが生じつつある（アウトソーシング企業）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数 (前年比)	471 2.8	417 13.1	453 1.5	407 12.7	127 24.0
負債総額 (前年比)	4,684 178.2	1,267 46.7	1,605 54.0	1,105 57.3	766 79.0



景気ウォッチャー調査（7月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

・国内販売は監視カメラを中心に堅調を維持している。海外販売も北米、欧州、アジアともにCCDカメラの売上が増加している。米国、カナダではイラク戦争終結に伴い回復の兆しがある（電気機械器具製造業）。

<先行き>

・企業の人員整理は、建設業の一部を除いて落ち着きを見せている。管内の基幹産業である製造業の求人もやや増加傾向にある。パート化、派遣社員化はみられるものの、改善の方向へ向かっている（職業安定所）。

